

飯能西中だより



天覧山 1月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和5年度 第10号
令和6年1月10日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立・共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたいていと言え学校でありたい
飯能西中学校スクールアイデンティティー

年始にあたり思うこと

校長 中村 公一

今年はい暖かい日差しにも恵まれて比較的過ごしやすい年末年始を迎えました。コロナ禍を乗り越えて数年ぶりとなる行動制限が無いお正月だったため、各地で初詣をはじめとした様々な催し物に参加する人や、久しぶりの帰省や海外旅行を楽しむ家庭も多かったようです。このように明るい兆しが見え始める中で年始を迎えた私たちの心を大きく揺るがしたのは、他でもない元日の夕刻に北陸地方で発生した能登半島地震です。この地震で不幸にも命を落とされてしまった方々のご冥福と、大切なご家族を亡くされたり、大きな被害を受けて絶望の淵にある多くの方々に心からお悔やみを申し上げたいと思います。家族そろって新年を祝うはずだったお正月の三が日がまさかこのようなことになろうとは、誰にも想像がつかなかったことと思います。こういった自然災害が起きるたびに痛切に感じるのですが、失われた命や過ぎ去った時間は取り戻すことが出来ません。だからこそ今ある命と今この瞬間を大切にするようにしなければいけないのだと思います。今なお安否のわからない方がいらっしゃるようですし、交通が遮断されて支援が届かないところもあるようです。一日でも早く皆さんの心や体の苦しみが和らぐ日が来ることを祈らずにはられません。

街頭では義援金を募る活動を見かけますし、支援物資を送ったり現地ボランティアの可能性を探る動きも始まったようです。私たちにできることはこういった活動に賛同して協力するというだけでは無いと思います。今まさに地震による困難に陥っている人を助けるという行為が、やがてはみんなが生きていてよかったと思えるようなよりよい社会を目指すことに繋がっているのだと広く捉えて考えるとすれば、寄付やボランティアなどで直接的に関わる余裕がない中学生にとっても、上に述べたような日々の時間や命を大切にしていっていったことを通してよりよい社会をつくることに貢献していくことが可能だからです。年の初めから忌まわしい災難に見舞われてしまい、被害に遭われた方にはどのような言葉も慰めにはならないかもしれませんが、これをきっかけとして、今ある命と時間を大切にしながら互いに助け合うことを忘れない一年間にしていきたいものです。

年が改まったとはいえ世界に目を向けて見ると未だウクライナでの戦争やイスラエルとパレスチナの衝突は収まる気配はありません。よく言われることですが、戦争を終わりにすることは戦争を始めることよりも何倍も難しいといひます。世界情勢が落ち着かなければ国際流通の影響を受けやすい我が国の経済の見通しは不透明なままです。昨年から社会で話題となっている金融緩和と円安の影響や今年の実質賃金がどれだけ上昇するかどうかは、学校でも給食費や制服などの値上げの問題に直結しており、今年学校徴収金をはじめとした様々な経費を見直す正念場となりそうです。

さて、このような中、本校の生徒達はコロナ禍を乗り越えて元気に頑張ってくれています。本校に着任してからまもなく3年になりますが、これまで本校の生徒について感じてきたのは、素直で優しい生徒が多いということです。教員の働きかけにも純粋に反応してくれます。校長としてこれまで伝えてきた『三つの心構えと二つの習慣』についても、しっかりと受け止めてくれている生徒も多く感心することがあります。しかし一朝一夕でこのような生徒が育つわけではありません。日頃から素晴らしい保護者と暖かい地域に支えられているからだと思ひます。このことに心から感謝しつつ今年もよりよい学校経営を行って参りたいと存じますのでよろしくお願ひ申し上げます。

私たちには助け合いや相手を思いやる気持ちが必要です

生徒の皆さんへ

二学期の終業式では年末年始の過ごし方についてお話ししたのですが覚えているでしょうか。世界中どここの国に行っても、それぞれの宗教や文化に沿いながら年末年始を祝う習慣があります。新しい年といってもそれはあくまでもカレンダーの上でのことであり、何か環境とか状況が変わるといようなことはありません。あえて言うなら気もちようが変わるだけなのですが、実はこれがとても大切なのだというお話をしました。私たちは生きていく上で、辛いことや悲しいことから逃れることは出来ません。また私たちにはそれぞれに自分のことや家族のことについての悩みや課題があり、それを背負って生きています。悩みのない人なんているはずがないのです。けれどもいろいろな悩みや問題を引きずったままでいたのでは、やがて耐えきれなくなって心が折れてしまいます。そうならないようにするためには、嫌なことは忘れて気もちを切り替えたりしていく必要があるのです。つまり年末年始というのは気もちを切り替えるためにとてもよい機会なわけです。ですから年末年始こそ家族と過ごす時間を大切に、新たな気もちで新学期にまたお会いしましょうというお話をしたのでした。しかしながら北陸地方の石川県では元日早々から大きな地震が起こり、そこに住まわれている人たちのそのような営みを無情にも打ち砕くようなことになってしまいました。その人たちの気もちを考えるとみなさんもいたたまれない気もちになってしまうのではないのでしょうか。日本というのは美しい自然に囲まれています、一方においてはこのように自然災害が多い国といえます。しかし私たちはこれからこの国土で生きていかねばなりません。そのためにはこんなときこそ助け合わなければならないのです。今の私たちにすぐに来ることは少ないかもしれませんが、互いを思いやる気もちだけは大切にしたいものだとは思いませんか。

叱られたり褒められたりするだけでやる気が出るものではない（前号からの続きです）

たしかに世の中には理不尽に思うようなことがたくさんあるので、ある程度は叱られることを我慢する必要があるのですが、上手に叱ればやる気が出るのかということそうではないようです。X世代とZ世代の大きな違いはそのときの世相にも関係していると思うのです。X世代と呼ばれる1960～1980年生まれである私たちが過ごしてきた社会では、経済規模が順調に拡大していて、給料も毎年ベースアップするのが当たり前のよう考えられていました。住宅を購入する際に、借入れから5年後に支払額が大幅に増えるステップ返済が流行ったのも、給料は毎年増えるものというのが前提になっていたからです。次から次へと新しい商品やサービスも現れ、未来は更に便利で豊かになっていくものという期待感がそこにはありました。そのような中であつたのでX世代の私たちは、自らのやる気次第で望む未来を手に入れようとする希望を持ちやすい環境にあつたのだと思います。しかし、Z世代と呼ばれる若者が育ってきた今の社会では常に経済が低迷していて、給料を増やすためには転職以外に方法は無く、嫌なら辞めるというのが当たり前になってきています。未来への期待感が持てない社会なわけなのですから、そもそもやる気が生まれにくい環境なのです。なのでどんなにやる気が出るような叱り方や褒め方を考えたとしても、親ガチャのように自らの運命を握るのは自分のやる気ではなく、生まれてきた環境だと思っている若者にとって効果が無いのは当然のことといえます。むしろゲームの攻略法のように手っ取り早くうまくやる方法やスキルを教えた方がやる気を出してくれるのかもしれませんが、最近では私自身の考え方が古いのではないかと、もっと柔軟な考え方に変えて行かねばならないのではないかと考えるような毎日です。

○ 1月の主な行事予定 ○

9日(火) 3学期始業式	22日(月) 3年生私立高校受験集中日
10日(水) 給食開始 自転車点検	24日(水) 1・2年生実力テスト
17日(水)・18日(木) 県立特別支援学校入学選考	27日(土) 学校公開日(弁当持参) 午前:P T A企画の体験授業 午後:大道芸鑑賞会 (飯能市子ども議会を通じて開催決定)
19日(金) 書き初め展の審査会(体育館) 本校体育館が市内展の会場です	29日(月) 振替休業日
20日(土) 書き初め展(1日目)	30日(火) 1・2年生教育相談(2/7まで)
21日(日) 書き初め展(2日目)	